

に じ

Vol.30

2014年9月発行号
ご自由にお持ち下さい

地域医療のかけはし
となることを願って

Contents

- P2 事務長就任のごあいさつ
- P3 内科(消化器)のご紹介
- P4 DMAT 発足!
- P5 ふれあい看護体験
- P6 施設整備課紹介・新任 Dr. 紹介
- P7 信頼と連携の輪
- P8 診療日程案内



社会福祉法人
恩賜財団 **済生会川内病院**

事務長就任の ごあいさつ



済生会川内病院 事務長

山下 宗則

(やました むねのり)

5年前に航空自衛隊を退職し、野菜作りの百姓生活もなんとか板についてきたかなと思いはじめたころ、院長の誘いにより済生会病院で働くことになってから四ヶ月が過ぎました。当初、院長の誘いを受けるには一抹の不安もありましたが、「人を動かす」ことに病院も自衛隊もさして違いはないだろうという思いで引き受けました。

この間「半年くらいは様子眺めで」と思っていたのとは大違いで、人事

案件、電子カルテ導入その他と、新任事務長としてはとても充実した日々を過ごさせていただいております。充実したという言葉の裏には、生まれ故郷に帰ってきて、昔お世話になったおじさんお婆さんたちがお年を召され、病院にお世話になることが多くなり、その病院運営の一端を担う仕事で、「地域貢献ができる」という確かな思いがあります。

さて私の前職である航空自衛隊では、飛行部隊、警戒管制部隊及びミサイル部隊等が数十キロないしは百キロの単位でそれぞれが離れて展開しています。強靱なネットワーク通信網構成の下、お互い顔を合わせることなく各種ディスプレイを見ながら、音声により連携を取り合い、任務を遂行していかねければなりません。顔が見えないだけに何回も繰り返し行われる訓練を通して、自信や信頼関係を醸成しています。一方病院はと言いますと、毎日が実際に「病人を救う」という本物の現実の連続です。「人を救う」病院の毎日には、航空自衛隊のやり直しのきく

訓練の日々とは異なり、決してミスは許されない厳しいものがあります。

病院は、医師を頂点に高度に分業化された職場です。しかしながら、航空自衛隊の任務遂行とは異なり、そこではお互い顔を合わせ、表情や言葉を確認し合いながら、直接に意思の疎通や連携を図ることができません。この数ヶ月の間私には、もつと互いに会話を交わし合って意思の疎通や連携を図り、積極的に協力し合えばもつと良い病院になるのにと、思わせる場面がけっこうあったような気がします。ここでは毎日が忙しく、職員それぞれが専門的になりすぎて「他人任せ」的なムードに陥りがちな、何かがあるのかもしれない。病院は、患者さんやその家族にとっては、最後の頼みの綱です。スタッフ同士が明るく会話し、意思の疎通や連携が良好な職場は、患者さんやその家族に、間違いなく安心と安らぎを与えてくれるでしょう。

東京など大きな都市部では、アベノミクス効果で長年続いたデフレから

なんとかかぬけだそうとしています。しかしながら、ここ薩摩川内ではまだまだ景気が目に見えて良くなったという声は聞こえません。病院を取り巻く環境も、高齢化、人口減、消費税導入及び診療報酬改定等なかなか厳しいものがあります。こういうなかで、異色の事務長ではありますが、職場が風通し良く、明るく楽しい雰囲気地域貢献できるような環境を整備し、病院が北薩の中核病院として地域の人々からさらに信頼され頼りにされる病院となるよう、微力ではありますが努めてまいります。皆様のご指導とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い致します。



▶ 済生会九州フロック
親善ソフトボール大会にて応援中



内科(消化器)のご紹介

牧野 智礼 (まきの ともあき)

済生会川内病院 内科部長

はじめに

平成26年4月より内科(消化器内科)の常勤医は、青崎院長、牧野、田淵、大野、羽田の5名の診療体制になりました(4名は鹿児島大学消化器内科から派遣)。昨年と比較すると非常勤医師が3名から2名に減りましたが、医療の質を落とさないよう努力してまいります。今後とも川薩地域の中核病院として皆様のお役に立てるよう、一生懸命頑張らせていただきますのでどうかよろしくお願い致します。

消化器内科の病気について

消化器内科では、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・胆嚢・膵臓の臓器を扱っており、逆流性食道炎(急性・慢性)胃炎、腸炎、胃・十二指腸潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸ポリープ、胆石症、膵炎、消化器がん等の病気に対して診断、治療を行っています。緊急処置を必要とする急性の病気から、定期的な診療が必要な慢性の病気まで幅広く対応する医療を心がけています。

消化器内科の検査について

消化器内科の検査としてまず思いつくのは胃カメラ(上部消化管内視鏡検査)と大腸カメラ(下部消化管内視鏡検査)だと思います。上部消化管内視鏡検査については、検診や有症状に対する精密検査等で行いますが、当院では最新の内視鏡機器を

用いて拡大内視鏡 + NBI(Narrow Band Imaging, 狭帯域光観察)を行い、がんの早期発見に取り組んでいます。早期がんは無症状であることがほとんどですので、積極的な検診をお勧めします。治療に関しては早期がんであれば内視鏡で治療できる可能性も十分あります。また、胃癌に関しても

すが、皆様も耳にしたことはあるかもしれませんが、ピロリ菌というのが最近の話題です。ピロリ菌は慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌などに関連するといわれています。以前は胃・十二指腸潰瘍の方のみ保険診療でしたが、2014年2月より慢性胃炎の診断でも保険診療が行えるようになりました。当院でも慢性胃炎の方には積極的にピロリ菌感染の検査をお勧めしておりますし、ピロリ菌陽性であった場合は除菌まで施行しております。除菌は一週間の内服治療で70~80%の除菌成功率があり、除菌することによって除菌後の胃癌の発生率が有意に下がることが報告されており、除菌で、気になる方は当科にご相談ください。

なお、ピロリ菌に対する保険診療の条件としては上部消化管内視鏡検査で慢性胃炎が疑われた場合に限られますので、しばらく胃カメラを受けておられない方も胃カメラをご相談ください。

下部消化管内視鏡検査については、はじめて行われる方は、検診の便潜血陽性の方が多いかと思われます。便潜血検査が陰性の場合でも、大腸ポリープ、大腸がんを認めることはありますので、40歳以上で一度も検査を行ったことがない方は一度検査を受けられることをお勧めします。切除可能な大腸ポリープを発見した場合、同時に切

除も可能です。当院では1泊2日の入院でのポリープ切除を行っております。その他に、消化管造影検査、腹部エコー(超音波検査)、胆膵内視鏡及び放射線科の精度の高い画像検査(CT・MR)と併せて、適切な診断・治療が行っています。

診療について

適切な検査、診断を行ったうえで、個々の患者様の状況に合ったガイドラインに準じる治療が行えるように心がけています。治療方針に悩む場合は、外科医、放射線治療専門医とカンファレンスを行い、最適な治療が行えるように、また当院で治療困難な場合は、鹿児島大学病院をはじめ、鹿児島市内の主要病院とも密な連携をとり、患者様に満足いただける治療が行えるように体制を整えています。

おわりに

定期的な消化器検査を行うことによりがんを早期に見出すことで、治療もスムーズになりますし、結果として治療率も高くなります。40歳以上で検査を行ったことがない方は、是非一度検査を受けられることをお勧めします。可能な限り苦痛の無い検査を心がけます。

私たちは、皆様と相談しやすい環境を作れるようにがんばります。消化器には関係ないかも、というような症状でも病気のサインである可能性がありますので、何でもお気軽にご相談ください。

ディーマツト

DMAT発足!

Disaster Medical Assistance Team

小児外科部長
池江 隆正
(いけえ たかまさ)

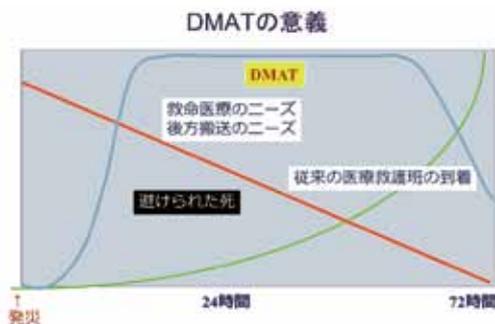
左から2番目：池江医師

今 年1月に隊員養成訓練を受け、薩摩川内市にはじめてできたDMAT(ディーマツト) Disaster Medical Assistance Team隊員の一人となりました。

構成員は医師1名、看護師3名、業務調整員(事務系)1名の計5名です。まだわからないことも沢山ありますが、訓練などで学んだことを少しお話ししたいと思います。

そもそもDMATの始まりは、1995年の阪神淡路大震災がきっかけでした。死者・行方不明者6425名中、約500名は初期医療体制の遅れがなければ避けられた“防ぎ得た死”であったことが問題となり、厚生労働省により平成17年4月に災害医療派遣チーム・日本DMATが発足したそうです。ではDMATはこれまでのやり方とどう変わったのでしょうか?

① まず何と言っても、より早く参集することで、災害直後の膨らんだ医療ニーズに応えることです(図)。これまでの救護班は災害が起こると、まずは会合が開かれ、救護班を送ることが決定された後、人選に入ります。その後さらに準備する薬品や、計器類などの資器材をそろえるためどうしても数日の遅れができてしまいました。一方DMATでは例えば震度6弱以上(東京都23区は5強以上)の地震や、津波、航空機事故などが起こると、自動的に待機状態になり、各DMATは出動できるよう準備を始めます。薬や資器材は常にバッグに入れてあり、防具を含め個人のユニフォームも揃っており、いつでも持ち出し可能となっております。正式な出動要請が出ればすぐに出られるようかねてより準備をしているのです。



② 次に特徴的なのはインターネットを使い、情報交換、組織化に役立っていることです。

インターネット上にEMIS(広域災害医療情報システム)というところがありまして、各隊の状態(既に出動したか、いつ頃参集場所へ到着する予定か)を入力して、本部が集まるDMATの数や時間をあらかじめ把握し、人員配置の適正化を計ることができるようにしています。また被災地域

の病院を訪問してライフラインなど被災状況を代行入力して、被災地域全体の医療のキャパシティを評価し、診察可能な施設には診療支援のDMAT隊員を送ったりするのです。ちなみにネットがどこでもつながるように各隊には衛星電話が標準で装備されております。

③ さらに広域搬送というシステムがあります。これは県内を移動する地域搬送と違い、県外及び九州以外に患者さんを搬送するシステムです。例えば長時間足が瓦礫に挟まっており、“麻痺”がある場合、神経でなく筋肉がやられている「クラッシュ症候群」が疑われます。この疾患は集中治療が必要になってくることが多いため、輸液や尿のカテーテルの挿入を行った後、他県へと搬送するのです。その際には災害現場→(災害拠点病院)→SCU(主に空港の拠点)→飛行機中のDMAT→圏外のSCU→圏外の病院などといったリレーが行われます。スムーズに業務を行う為いろいろと決まりごとがあります。1回の訓練だけではなかなか身に付きませんので、何度か訓練を重ねることになります。なお患者さんが今どこか、どこへ運ばれたかということはネットで居場所を確認できるようとなっております。



もちろん他の組織である消防、警察、自衛隊、海上保安庁、市役所、県庁等の方々また地元医師会の先生方との連携も必須です。お互いの得意分野を理解してALL鹿児島、ALL JAPANで混乱に立ち向かう気持ちが必要だと思います。

現在DMAT隊員は登録数が6000人を超えたそうです。そして、いざというときには“100人の仲間たちが駆けつけてくれる”そうです。その時に共通の考え方、方法で、少しでも防ぎ得た死が減るように我々も訓練に参加するなど、日々努力しているところです。みなさんもどうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。



※SCU: Staging Care Unit(広域医療搬送拠点)

◎看護部より



「近代看護の母」と呼ばれるフローレンス・ナイチンゲールの生まれた日が1820年の5月12日。その日を「国際看護の日」と定め、日本では、1990年に旧厚生省が「看護の日」として「看護の心」「ケアの心」「助け合いの心」を育てたいとの願いを込めて制定しました。

「看護週間」（看護の日である5月12日を含む日曜日から土曜日までの一週間）には、“看護の心をみんなの心に”をメインテーマとして、看護協会を中心に全国各地において様々なイベントが開催されています。鹿児島県の看護協会でも、“多くの後輩が育つように”を目的として看護体験実施を推奨しています。

当院でも近隣の高校生を対象に看護職に対する理解を深め、看護の心を知ることが目的として、夏休み中に実施しています。体験に来てくれた高校生には、高校の制服からナース服に着替えてもらい、記念撮影をします。病院長・看護部長からあいさつをもらった後で、リハビリ室・放射線科・薬剤部の見学を行い、担当者がその部署の仕事内容を説明します。その後、配属病棟にて環境整備・清拭・入浴介助・配膳・食事介助・車椅子移動・シーツ交換・おむつ交換などを体験してもらいます。各部署、学生に一つでも多くのことを体験してもらおうと工夫を凝らしています。

体験終了後に交換会を行い、感想を聞いてみました。「患者さんにありがとうと言ってもらえて嬉しかった」「初めて赤ちゃんを抱いて感激した」「立っていることが多く足が疲れた」…、嬉しかったこと辛かったことなどたくさん話してくれました。また、担当部署では、学生の元気なあいさつや、患者さんへの笑顔の対応を見て、自分達も初心を思い出すことができ良い刺激をもらったとみんな喜んでいきます。一人でも多くの学生が、医療関係の仕事についてくれる事を願い、今後も「看護ふれあい体験」を続けていきたいと思っています。



看護師長 井上 安寿子 (いのうえ やすこ)
看護師長 脇中 みどり (わきなか みどり)
看護師長 植松 裕見子 (うえまつ ゆみこ)



施設整備課紹介

私たち施設整備課の仕事内容はわかりにくいと思います。簡単に言いますと、病院の建物、土地及び設備（医療設備は除く）の維持管理を行う部署です。わかりやすい表現では、街の電気屋さん、水道屋さん、建築屋さんと言ったところでしょうか？

維持管理と言っても、建物、設備等を維持管理するには、種々の法律により規制され、その法律に基づき行わなければなりません。その為、私たちは、各種国家資格取得の挑戦も行っています。何より、私たちの仕事は、患者さんや職員が快適に診療・療養できる、働きやすい環境づくりを行うことと考えています。

また、仕事の取り組み方として、“スピード”をもって、いかなる事も対応するよう心がけております。すぐやる課（施設整備課）として頑張っていきます。

部員紹介
施設整備課は現在、男性3名です。



名前	趣味・特技
★ベテラント	球技スポーツ全般
★中堅 F	子供と遊ぶこと
★新人 S	ドライブ、野球



《新管理棟》
新管理棟新築に携わりました。
(平成26年3月28日竣工)



《太陽光発電》
新管理棟屋上に21.29kw
の太陽光発電設置。



《LED交換》
内向化作業の一環で蛍光灯
照明をLED照明へ交換中。

新任 Dr. 紹介



よろしく
お願いいたします！

6月より新しく
当院の医師となった3名を
ご紹介いたします。

外科

とだ ひろこ
氏名：戸田 洋子

- 出身地 山形県米沢市
- 前赴任地 寺田病院（伊佐市）
- 趣味 旅行、飲むこと、食べること、作ること
- コメント 30代で医学部に再入学するまでは、東京でOLをしていました。まだ、患者だった人生の方が長い新人外科医ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



外科

やなぎ まさゆき

氏名：柳 政行

- 出身地 鹿児島市
- 前赴任地 鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科
- 趣味 男料理
- コメント 内視鏡外科手術、がん治療、緩和医療など専門性の高い医療を提供できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



麻酔科

ひだか たてわき
氏名：日高 帯刀

- 出身地 鹿児島市
- 前赴任地 鹿児島市立病院
- 趣味 アマチュア無線技師
- コメント 麻酔を始めて20年を超えてしまいました。前任者が行っていたペインクリニックは同僚の西村先生に任せて、スシ安情、報要場所とりをしながら、いざ危機管理していきたいです。



信頼と連携の輪

連携医療機関のご紹介

地域の中核病院は、地元の医療機関との緊密な連携プレーが欠かせません。そこで当院が日頃 大変お世話になっております連携医療機関についてのご紹介です。

《 外科・内科・胃腸科・肛門科・整形外科・リハビリテーション科 》

▶ 若松記念病院

薩摩川内市



院長名 若松 大介
住 所 薩摩川内市神田町 11 番 20 号
電 話 0996-23-3291
診療時間 【平日】〈午前〉9:00~12:30
 〈午後〉14:00~18:00
 【土曜】〈午前〉9:00~12:30
休診日 日曜祝祭日8/14、15、12/30~1/3
交通アクセス 市内循環くるくるバス若松記念病院前



今年で開業57年を迎えました。地域医療の充実を目指し、安心と信頼の理念の元、全職員109名とともに日々取り組んでおります。現在、一般病棟22床、療養病棟52床を有しており、退院後の療養生活にも対応できるように併設施設の通所リハビリテーション、在宅療養の訪問看護もご利用でき、安心できる医療体制が整っております。

また、済生会川内病院との医療連携では、担当部署専任看護師を配置し、連携医療機関として、急性期治療後の在宅復帰支援や施設入所の援助等も行ってあります。さらに終末期療養や緩和ケアにも力を入れており、ご本人ご家族様にとって心穏やかな人生の終活となるようご支援したいと思っております。

これからの高齢化社会に対応すべく医療、介護、在宅、サービスを包括する地域包括ケアを目指し、市民の皆様方への安心を提供してまいります。

《 内科、血液透析 》

▶ 森田内科医院

薩摩川内市



院長名 森田 隆久
住 所 薩摩川内市大小路町 2191
電 話 0996-22-0559
診療時間 【平日】〈午前〉9:00~12:30
 〈午後〉14:00~17:30
 【土曜】〈午前〉9:00~12:30
休診日 日曜・祝日



地域医療のあるべき姿を目指します

【必要な医療を受けられるようサポート】

今年26年目を迎える内科・血液透析を専門とする医院です。特に慢性維持透析の管理に力を入れています。

一番身近なかかりつけ医として、患者さんの状態をしっかり把握することが重要と考えています。そこで、平成24年からは専門の医師による循環器内科・消化器内科の診療を開始し、患者さんのサポート体制の強化に取り組んでいます。また、診診連携・病診連携の体制を整え、患者さんに必要で安心な医療を提供できるよう努めています。

【医療サービスの充実に注力】

- 地域の交通事情や高齢化に伴う通院困難な透析患者さんのニーズに応えるため、送迎を行っています。
- 健康管理に役立ててもらうために、管理栄養士による栄養指導を行っています。
- しん灸・マッサージ師によるマッサージのサービスを行っています。

診察日程案内

平成26年9月現在

■ は再診日です。

		月		火		水		木		金		土	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	糖尿病	西牟田 浩				倉野 美穂子		馬場 泰忠		久保田 敬子			
	消化器	田淵 雅裕				青崎 眞一郎		牧野 智礼					
	肝臓	呉 建		最勝寺 晶子 梶 一晃		最勝寺 晶子 樋脇 卓也		最勝寺 晶子 梶 一晃		今中 大			
	循環器	福岡 嘉弘		福岡 嘉弘 網屋 俊		網屋 俊		福岡 嘉弘		網屋 俊			
	ペースメーカー (第3・4金曜)									福岡 嘉弘			
	腎臓	濱田 富志夫		小山田 美紀		古城 卓真		濱田 富志夫		小山田 美紀			
	呼吸器	※未次/秋原 /坂上						副島 賢忠					
	一般内科	古城 卓真		再診日		大野 香苗		再診日		羽田 明生 梶 一晃			
外科	外科	手術日		柳 政行 (予約制)		手術日		貴島 文雄 (予約制)		手術日			
	ストーマ外来 (第1火曜日)			貴島 文雄									
小児外科	(一般外科手術)			池江 隆正 (13時30分-16時)	(一般外科手術)			手術日	(一般外科手術)	池江 隆正 (13時30分-16時)	池江 隆正 (第2・4土曜) (9時30分-11時)		
整形外科	村角 恭一 救仁郷 修	病棟回診	手術日		村角 恭一 救仁郷 修	検査	手術日		村角 恭一 救仁郷 修	手術・検査	術後回診		
小児科	田中 主美 吉川 英樹	予防接種 受付11-12時,14-15時 1ヶ月,11-13ヶ月健診 受付13-14時	田中 主美 吉川 英樹	予防接種 受付11-12時 14-15時	田中 主美 吉川 英樹	予防接種 受付11-12時,14-15時 発達外来 受付14-15時	再診日		田中 主美 吉川 英樹	予防接種 受付14-15時 (第2金曜のみ) 受付14時半-15時半	田中 主美 吉川 英樹		
泌尿器科	1診	手術日	伏谷 俊作 堂満 洋司		堂満 洋司 伏谷 俊作		再診日		伏谷 俊作 堂満 洋司	堂満 洋司 伏谷 俊作	手術		
産婦人科	産科 野口 慎一 婦人科 松尾 隆志	1ヶ月検診	手術日		松尾 隆志 比良 高明	予約検査	比良 高明 野口 慎一	手術	野口 慎一 松尾 隆志	予約検査			
眼科	非常勤医師		非常勤医師		木村 勝哲		木村 勝哲		木村 勝哲				
皮膚科	坂口 郁代	手術	坂口 郁代	予約診察	坂口 郁代	病棟	坂口 郁代		手術日				
放射線科	南立 亮	放射線治療	小野原 信一	血管造影	小野原 信一	放射線治療	小野原 信一	放射線治療	南立 亮	放射線治療	小野原 又は南立		
緩和ケア外来			第1・第3火曜日 14-16時 安原/勝日/原田 (精神症状緩和・隔週)					毎週木曜日 14-15時 貴島 文雄(身体症状緩和・毎週)					
ペインクリニック									西村 絵美				

- ※呼吸器外来は月曜日又は木曜日の診察になります。詳しくはお問い合わせ下さい。
- 予約が必要な診療科・検査がございます。恐れ入りますが事前にお問い合わせ下さい。
 - 担当医師は学会出張などにより不在・変更が生じることがあります。
 - がんに関する相談をがん相談支援センターで行っております。(9時～16時)
 - がん患者さんとご家族のサポートを行う緩和ケアチームがあります。
 - セカンドオピニオンに関する相談を医療連携室にて行っております(9時～17時)

予約・お問い合わせは
TEL (0996)23-5221 (代表) 予約電話 月～金曜日
内科:14時～17時 その他:13時～17時

理念 私達は、保健・医療・福祉を通じて地域社会に貢献します。

- ### 基本方針
- 1.患者様の尊厳と権利を常に尊重します。
 - 2.医療情報の開示と懇切な説明による開かれた医療を実現します。
 - 3.私達は常に研鑽し、患者様本意の、良質で安全な医療を目指します。
 - 4.公的中核病院として、地域の先生方と協力し、救急医療と高度の専門医療の推進に努めます。
 - 5.職員の協調と信頼によって、チーム医療の充実に努め、働きがいのある職場を作ります。

患者様の権利と責務について

- ### 権利について
- 1.誰でも、個人の人格や価値観を尊重され、良質な医療を公平に受ける権利があります。
 - 2.病院や治療について十分説明を受けた上で、検査や治療方法など、自分の意志で決める権利があります。
 - 3.診療の過程で得られた個人の情報等(プライバシー)は守られる権利があります。
- ### 責務について
- 1.自分自身の健康に関する情報を、出来るだけ正確に医師や看護師に伝えて下さい。
 - 2.医療に関する説明を受けても十分理解できない場合は、わかるまで質問して下さい。
 - 3.病院の規則を守り、他の患者様の迷惑にならないようご配慮下さい。



社会福祉法人 恩賜財団 済生会川内病院

〒895-0074 鹿児島県薩摩川内市原田町2番46号

TEL (0996)23-5221 FAX (0996)23-9797

http://www.saiseikai-sendai.jp/

mail: info@saiseikai-sendai.jp